

完成した火焚き殿

位置や間取りはほぼ焼失前と同じ。屋根は明治時代のかやぶき屋根をイメージ。



▲ 8月4日の落成式の様子

「火焚き殿」再建



「ご協力いただいた皆さん、
ありがとうございました」

昨年9月の「火焚き殿」の焼失に伴い、地元氏子の皆さんが中心となり「霜神社火焚き殿復興期成会」を立ち上げ募金活動を行うなど、再建に全力を注がれていましたが、多数の協力を得て、同じ場所に新たな火焚き殿が完成しました。

8月4日行われた落成式には、地元や募金に協力した人たち80人が集まり、2,600年の歴史ある神事を無事継続できたことを喜びました。期成会の渡辺照義会長は「たくさんの方の協力のおかげでこの日を迎えることができました、深く感謝します」と挨拶され、本年の神事に間に合ったことに厚くお礼を述べられました。



募金活動に協力した阿蘇高校と阿蘇清峰高校の生徒会に落成式で感謝状が贈られました。



阿蘇清峰高校生徒会

71年途絶えていた
薪の奉納を復活！

大八車に薪を載せ、的石を出発した
的石と霜神社氏子の皆さん



今年の火焚き乙女は、
山部仁衣名さん

再建した火焚き殿で、8月19日から国指定重要無形民俗文化財にも指定される火焚き神事が始まりました（10月18日まで）。

今年の火焚き乙女は、上役犬原の山部仁衣名さん（碧水小5年）で、介添えは祖母の多喜子さんです。

←火焚き殿の再建にあわせ、伝統ある火焚き神事ももう一度見つめなおそうと、長年途絶えていた的石地区からの薪の奉納が復活しました。的石の宮川幸宮総代や山内政治区長など、皆さんが火焚き神事が始まる朝、健磐龍命伝説の舞台である的石地区から切り出した薪を大八車に載せ古式にならい火焚き殿へ向いました。人々の思いと行動が、埋もれた歴史を蘇らせました。